



八期歴史会往来第44号

2012年12月1～12月31日(木)

コロナ禍の2020年最後の八期往来です。

●歴史通信担当 大石よりみなさんへ。

11月号に添付した管理人の挨拶

〇いっこうに衰えそうにない新型コロナ禍です。

テレビや新聞の報道もこう長く続くと正直、飽きが来てしまいます。

それぞれでいろいろな問題が起きていますが身内に降りかかってくるまでは(深刻派)から(ほどほど派)までかなりの幅を感じます。つまり、ほどほど派とは、マスクだけは付けて外出するひとびとです。実は私は(ほどほど派)です。いつも妻に注意されています。

八期仲間の年齢は、「いちばん糶ると怖い人々枠」ですが、もう商売している人は、まして、夜の商売や飲食業を営んでいる人はいないと思うので、よくニュースに登場する営業控えの報道には実感が伴わないのではないのでしょうか。ぼくも街の中で60年も仕事をしてきました。大都会に比べようがありませんが、こんな田舎の商店街(天文館)でも、人出の数の減少には驚かされました。今から第三波が来る(来ている)ようですが、とりわけ夜の天文館の年末の飲食業者の人たちの大変さに同情を禁じえません。

ところで、傘寿(80歳)を越えて仲間の不幸が増えています。ほんとうに、人生の峠なのでしょうか、身近にいる元気な仲間たちの口からも病院・飲み薬の話は急速に増えてきました。

「あのね、実をいうとね……」の後は決まって、身体のあちこちが痛いところが増えた話や転んで痛みが取れないなどの話ばかりです。

八期歴史通信も毎朝、新聞を広げて、何か伝えたい記事はないか探すのですが最近なかなか見つかりません。ネタの提出がないと、皆さんからの返答もありませんので『メール問答』もだんだん少なくなるのではと心配しています。一方、スマホのLINE 八期グループ交信の方は最近、八期の総大将・浜崎 隆クンや南郷善之助くんの参加により現在30名の会員(おともだち)になりました。瞬時のやり取りなのでこちらの方がだんだん多くなっていきそうです。ただ、いずれも「見るだけ」派がほとんどなのが寂しいです。

11月も明日で終わりです。今年の12月は私(大石慶二)にとって特別な月になりそうです。

〇本田コメント

先週来、佐土原に行ったり、その他市内へrの病院通いなどで、大石様から紹介されていた「日新公、生誕五百年記念誌」の発行元の「鮎川印刷」(南さつま市)に何う日程が獲れず、やっと、本日、(11/30)、加世田まで行けまして、社長様にお会いできて、記念誌も若干残っていたことで、運よく、入手できました。

今、読み始めていますが、日新齋と息子の島津貴久親子軍が、当地の桑波田一族を攻めた永吉南郷城争奪戦についても記載されていましたが、今まで知られている範疇での「内容」でした。その他はまだ知らないことが多いので、「日新齋」を知る良い「史料」になります。

ところで、大石さんの処の美容室に、鮎川社長の奥様[旧姓松久保さん]が結婚までお勤めされておられたとの事、社長さんに確かめたところ、「大石先生には大変お世話になった」と懐かしくおっしゃっていました。さらに家内と一緒に行ったので、家内の話では、吹上高校の同期生に加世田の印刷屋さんお息子さんと、同級生に同じ名前の方がいたとの事であったので、この事も確かめましたら、その現社長の実父であることも判明して、びっくり!! 世間は狭いな?という感慨を持ちました。

そのお父様は残念ながら、73歳で心臓病(心筋梗塞)で73歳でお亡くなりになったとのことでした。

隈元氏が、小生の島津家久の「謎の死」についての「弔表」については日的されています。

自分としては、今まで島津ファンであり、家久の母は本田家の先祖でもありますので、島津家久、豊久親子は、誰よりも「愛すべき武将」として、尊敬もし、彼らの生き様もなるほど日頃感銘しながら、探求しているつもりです。

家久の死については、確かに確たる「史料」がほとんどないのが難点ですがね？！

島津宗本家のそれまでの治政方針、とそれまでの歩み、家久自身のそれまでの生き様、3男歳久が最後まで豊臣に降伏しなかった事、そして地元佐土原での言い伝えなどを総合的に、人間の生き方として自分がその立場(義久や義弘の島津家の総師としての)なら、どのような事になるか？を熟慮した時、あの時の家久の「単独行動」は如何ともしがたいという結論に辿り着いたという事です。

ほかの皆さんからも、随分思い切った事を述べましたね？と言われました。

この件については、いずれ何処かでお会いできた時、じっくりとお話しできるかと思えます。

この12月3日には、今度は薩摩川内市で、「島津4兄弟と永吉島津家」について講演を依頼されており、今その準備に精励して理ます。

それから、新名先生の新書の「上井覚兼日記」はサインをいただきながら、直接購入できましたが、現代語訳板であり、とても読みやすくありがたいです。

2020, 11, 30、 本田 哲郎

○たどれば、皆 親戚という言葉がありますが

人間 どこでどう繋がっている

面白い物ですね

島津探求の熱意に敬服です。

新名先生の新書の「上井覚兼日記」

アマゾンでは、高額な値が付いていますが...

=====西山 和宏

○西山さん、早速のコメント、ありがとうございます！！ 本田です！！

昨日は、早朝6時ごろから、ヘラ釣りに出かけて、午後4時過ぎに自宅に帰り、その後、加世田の鮎川印刷会社に出かけて、やっと日新齋の記念誌をゲットできましたので、とりあえず、南郷城争奪合戦の記事だけを読んで、大石様へのご報告と思い、眠気を覚えながら、キーボードに向い、すぐに「送信」してしまいました。

後で、見直ししましたら、自分でいつも仕出かす事ですが、「打刻ミス」が多くて、恥ずかしい事です。 反省しています。

ところで、ひとつ、その時、これも打刻する予定にしていたのですが、先だつての大石様が纏められた現在の「八期生名簿」を拝見していましたところ、西山様は「文京区西片町」在住であられるとか？、懐かしく、学生時代を思い出しました。

あの「西片町」近くに、本郷通りに面した、今は文京学院(大学本部)になっていますが、当時、「本郷追分町」と言っていたのですが、我々が4年間お世話になった「同学舎」(三州出身の男子学生のための明治39年に、島津家が創設した学生寮)がありました。

今は、文京学園本部の正門近くの植え込みに「同学舎の石碑」があるだけですが、今は日野市に移転しております。現在も多数の学生が寄宿しています。

西片町界限周辺は、良く夜中まで飲み屋や食い物屋などにふらついた思い出が多く残っています。60年前とはスッカリ変わったでしょうが、懐かしい所です。

2020, 12, 1、 本田 哲郎

○日本中、いや世界中、急速に様変わりしていますが東京で最も開発が遅れた地域と言われていた本郷界限も大きく変わりました。

おそらく、ご存知かと思えます「のんき」は後継者ナシで閉店しました。

文京学院は男子も受け入れ高層校舎になっています。

幕末に一家7人皆殺しにあったという高崎屋は昔のままです。

=====西山 和宏



問題の馬毛島は鹿児島県西之表市の大字です。

○大石提案します。 **subject:** 賛成? 反対?

馬毛島問題だけは歴史関係外でいちばん関心のある問題です。

○大石さん

こんにちは 生駒の木場です。

馬毛島 もともと 長い間 ややこしい島のようなですね。鹿児島 故郷から長年離れて者にとって、うすうすは 馬毛島 アメリカ海軍空母艦載機の陸上空母離着陸訓練 (FCLP) の為 160億で政府が買い取り、訓練基地を作ることによって いろいろ 鹿児島県民が賛否わかれ、話題となっているようです。

ウィキペディアで 馬毛島(マゲシマ)を調べてみました。 私共へ 賛否どうか?とふられても 地元に住んでいないのでむづかしい判断です。 戦後、日本は平和主義、国際協調主義で 歩いてきました。 最近の米

国 トランプ大統領 になって以降 従来のアメリカは 世界の警察という時代は終わった 国際連合は いまや何の力、調整力もない時代に入りました。

これから 日本の地政学的重要性を鑑み 中国の最近行動 また、アメリカの他の国家間の問題の調整機能など失われたいま、どうして 行けばよいのか まったく 暗闇に入った感じを もっています。

というような 状況か なかなか 難しい判断となるようです。 私たちは 先は もう 長くない。 子供、孫たちの子孫時代に向けて・・・と

考えると ますます むづかしくなります。

以上のような わけで 賛否 は 控えさせていただきます。 よろしく 木場 祥雄

○カズ アンサー

軍管区警報、軍管区警報

敵機来襲、只今、種子島上空....

戦争中、ラジオから放送されたときには敵機は、市内上空に飛来していました。

馬毛島の今後を予測する参考として市長と知事の経歴を並べてみました。

本当に選挙は重要です。

西之表市長 八板 俊輔 (やいた しゅんすけ) (1期)

生年月日 昭和 28 年 6 月 30 日

略歴

- * 昭和 41 年 3 月 市立榕城小学校卒業
- * 昭和 44 年 3 月 市立榕城中学校卒業
- * 昭和 47 年 3 月 県立鶴丸高等学校卒業
- * 昭和 52 年 3 月 早稲田大学政経学部卒業
- * 昭和 52 年 4 月 朝日新聞社入社
- * 平成 24 年 6 月 朝日新聞社退職

塩田康一 (しおたこういち)

昭和 40 年 10 月 鹿児島県鹿児島市生まれ

昭和 63 年 3 月 東京大学法学部卒業

昭和 63 年 4 月 通商産業省入省

熊本国税局人吉税務署長

、在イタリア日本国大使館一等書記官、

経済産業省官房審議官などを歴任

平成 30 年 6 月 九州経済産業局長

令和元年 12 月 経済産業省退官

令和 2 年 7 月 鹿児島県知事就任

御二方の経歴を上記のとおりです。

西之表市長 八板 俊輔

下記は市長コラムより

25 馬毛島の朝日 (2019 年 5 月号)

俳人中村草田男に「降る雪や明治は遠くなりけり」の句があります。

「明治」は 45 年、「大正」は 15 年、「昭和」は 64 年、「平成」は 31 年に改元し、

新元号は「令和」です。昭和生まれには「ふる里や昭和は遠くなりけり」と言いたいところです。

新元号の典拠が万葉集とされますが、種子島も短歌づくりが盛んです。



馬毛島 土地買収合意から1年

私が所属する短歌会の例会に先月、久々に参加しました。

参加者は自作の歌を持ち寄り、互いに評し合います。次は拙作の一つ。

馬毛島や朝日が今日もにこにこ

上がる東に同胞の島

作歌の動機は過日、馬毛島小中学校卒業生が歌う校歌を聞いたことです。

初めて耳にした感動から、歌詞を織り込みました。歌詞全四番の一番は次の通りです。

朝日が今日もにこにこ/東の空に上がるとき/みんなの小屋から煙立ち/平和な島よこの里は/ああ馬毛島小中学校（「小中学校」は「しょうちゅうこう」と読みます）

馬毛島と種子島は、大きい方が小さい方を抱くように並び、血を分けた兄弟のように見えます。人々の思いを共有する、かけがえのない同胞の島だと思います。

昭和 55（1980）年に無人島になった馬毛島の日の出を私が初めて見たのは 7 年前の夏でした。

太陽は種子島の奥から昇ります。漆黒の闇に種子島のシルエットが広がり、馬毛島を包み込むように金色の太陽が空と海峡を赤く染め、母の胎内の温もりを思わせるパノラマがしばらく続きました。

朝日は、新時代の始まりを思わせませぬ。私は馬毛島が市民の身近に戻る日を夢想しています。

種子島の奥から昇る朝日=====西山 和宏

○ 大石コメント 12月3日

ぼくは迂闊にも馬毛島が無人島になった後、島は種子島の厄介者（島）と思っていました。特にバツタの異常発生で種子島本島までバツタが襲来したとかしないとか、資金があれば種子島本島（西之表市が中心になって）が買って観光地にするか、もったいないと思っていました。ある個人の事業家が誰も手を上げないので義侠心で購入したんじゃないですか？それも割と安い金額で（今の持ち主の父親）。あの島の形（平らな島）を見ているといずれ国が買って自衛隊の航空基地（離着陸練習）になるのは薄々鹿児島の人には感じていたのではないですかね。島民の中ではあの島が種子島の経済に寄与することを願っている（大きな声では言わないけど）人たちがいると思います。しかし米軍が訓練用に使うことがだんだんわかってきてる今、そして西之表市長が反対声明（絶対反対ではなく今の段階では自衛隊の使用計画を隠さず開示して欲しい）をあげていますが残念ながら遅きに失したのでは。塩田県知事の対応を注目していますが基本姿勢はあくまでも島民の総意が第一と言っています。知事個人の本音がどうなんでしょうか？

さて、ぼくは米軍使用は大反対です。自衛隊の使用だと同じ日本人同士なので意思疎通が全く通じないと言う事はないでしょう。何を考え、実行するかわからない大国がすぐ隣にあるので馬毛島はその為に日本を守る基地として種子島本島という関係を保つことは今となっては避けられないのではと思います。問題は自衛隊基地を米側との『取り決め』がどうなっているかです。

騒音被害は体験者じゃないと分からないといひます。第一の実害はこれじゃないですかね。

……西山アンサーに比べれば、ぼくの思いは感想に過ぎませぬけど。

○クマタツコメント 12月3日

大石くん

私が初めて「馬毛島」を見たのは、昭和35年7月9日から7月19日まで実に11日間もの間、種子島に滞在したときです。

当時、私は鹿児島大学男声合唱団・フロイデ・コールの3年生で、夏休みを利用して種子島の小中高校を巡回する演奏旅行で初めて種子島の地を踏みました。

当時、私たちの愛唱歌に「希望の島」(のぞみのしま)という歌がありましたが、その歌詞が種子島の西側に見える「馬毛島」を歌っているように私には見えたのです。(実際は外国人のつくった歌です)

遥か隔だつ 海の彼方
波風静かに しじ花咲き
香りは満つ あ われこの島よ
望みの島 平和の里
ものみな 足り満ち
日は落ちず 花散らぬ
喜びの ところよ

それ以来、仕事で種子島や屋久島に数え切れないほど行きましたが、「馬毛島」をいつ見ても、そのイメージは変わらずにいました。

そこに今回の軍事的な訓練の話が出てきて、私の中の「望みの島 平和の里」がどうなっていくのだろうと思うようになりました。

私は、そういういきさつもあり、もちろんいつまでも私のイメージ通りの「馬毛島」であって欲しいと願っていますが、現下の情勢からして99,9パーセントは私の願いは叶わないだろうと諦めの気持でいます。0,01パーセントの願いが叶うように願っています。

クマモト タツオ

○12月5日

2通の「上井覚兼日記」に関する資料受信しました。

明日、ゆっくり読みたいと思っています。

今日は午前中、グラウンドゴルフをやって、午後は5時から「鹿児島古寺巡礼」の著者・川田達也さんと12月3日の南日本新聞にも掲載された「南さつまの石蔵 古本展示」の記事の中に出てきた窪壮一郎さんの二人の講演会8勉強会に行ってきました。

川田さんは武岡の住人で、たまたま縁ができて一緒に史跡巡りにも行った男です。

彼の出版には本田哲郎さんが協力して段取りをされて、出来上がった本を本田さんが数百冊も知人に売ってあげたようです。

テーマは「鹿児島磨崖仏巡礼」でした。25人限定でもあったので大石くんにも呼びかけはしませんでした。

今日の学習会で知ったことですが、鹿児島には彼らが調べただけでも47ヶ所に磨崖仏があるそうです。

有名な川辺の「清水磨崖仏」や私が先日行った帖佐の「天福寺磨崖仏」、福昌寺跡の上の磨崖仏などです。

その中で私が行ったことがあったのは、今日数えてみると僅かに12ヶ所だけでした。

次回は6月だそうです。興味があれば誘います。

その後、妻と落ち合って市役所前のイルミネーションと天文館公園のイルミネーションを見て、先ほど帰ってきました。

クマモト

○青春 真っ盛りの方もおいでのようで結構なことです

私のお出かけは妻の薬の処方箋を貰いに病院に行くことと食材の買い物です。

本日は、娘2人と孫2人来宅でお昼を一緒にしました。

長年、スーパーマーケットに関わってきましたが、私のホームグラウンド、スーパーは、本当にサービスが低下しました。今をピークに凋落の兆しありです。

その他は、日暮、PCに向かいて情報収集で結構、忙しくしています。

PCで将棋か囲碁で勝利して、就寝前に少し読書というルーチン....

この1週間ばかりに読了したのは「鈴木貫太郎自伝」「終戦宰相鈴木貫太郎」「大日本帝国最後の四か月」昨日から「桜島・日の果て」を再読しています。

○西山さん

この歳になって読書が進むとはいいですね。

私は、借りた本も買った本も「積ん読」になりがちな今日この頃です。

西山さんは大変な中でも生活を律して、困難な中でも余裕を持って自分の時間もつくっておられる様子ですね。身近に娘さんやお孫さんがおられるのもいいですね。

もともと、私は気が多い性格？ だと自覚していますが、昨日の「鹿児島県の磨崖仏・板碑」の勉強会を聞いたあと、帰ってからこれまでの自分が訪ねたそれらのことが気になり、自分のブログを振り返って見たり、関連の資料を見たりで今まで過ごしてしまいました。

閑なのに忙しくしてしまって、まとまったことができません。反省しきりです。腰を据えて一つのことを追いかけていけなければならないのにこれでは全てが中途半端になってしまいます。まあ これも性格だから仕方ないかと自分を誤魔化しています。

クマモト タツオ

○本は、積読の前に、買っとく物という主義のつもりでいます

積読けば、いつか読むことがあるかもしれない、ないかもしれない

でも、ああ、あの本を見たい読みたいというときに積んであればよかったと思う。

でも、その本がどこにあるのか探し出せないことはある。

人間は、好奇心の強い猿とも言われています。

好奇心が強いのは人げある証拠、強くないのは.....

「桜島・日の果て」は桜島部分を読了、なかなか味わいのある文章だと感じました。

クマタツさんも大石さんも、本当に本の虫のようですね本当にいいですね

本は本当に良い導眠剤です。

これからも楽しみましょう！ =====西山 和宏

○ケイジアンサー

どの本の作者も内容についてはぼくより沢山の参考文献を詳しく読み、文章を書いているので歴史小説は面白い👍
史実を曲げない中で作者自身の想像でフィクションの登場人物を創造するわけですね。

歴史上の登場人物の性質・性格を大きく変える訳にはいかないけど作者の思い入れで微妙に変わってくる。

今読んでいる上井覚兼日記も作者・新名一仁の思いを日記の中の登場人物の言動にどう反映されているか興味深いところである。

島津四兄弟の言動を覚兼が日記の中で書いている。やはり四男家久の言動が気になるところだ。

つい、作者の新名氏は果たして日記の現代語訳を忠実にしているだけなのだろうか？

蛇足だけど、よくまあ毎晩『呑ん方』に明け暮れているもんだ…と思うことでした。

○クマタツコメント

私は「覚兼日記」はまだ手付かずです。

何やかやと、取り留めのないことばかりしているので、この有様です。

○歴史小説を読んで、毎晩呑んで

結構、毛だらけ、猫 灰だらけ

うちのばあちゃん しわだらけ

上井覚兼日記 そろそろ届く頃です。 =====西山 和宏

○毎晩呑んでいるのはぼくではなくて日記の中の武士たちのことです。参考に内容添付しますがお二人とも未読のようですので見ない方がいいかもしれません。ご自由に... 大石

○本田コメント

「上井覚兼日記」は、佐土原で著者の新名さんから、サインをもらって、その場で購入して、読んでいます。
家久主体の佐土原時代の天正 11 年前後のみの「日記」ですね？！
家久の「上洛日記」などの新名先生の史料も読みましたが、大石さんがおっしゃるように、
家久はじめ、側近の動きは、ほんとに「酒漬け」ですね？！
酒が入っての「談合・相談」が彼の特徴なのかも知れませんが、????！？

京都からの帰りの山陰の海周りで帰ってきたのですが、浜田港で、「波高し」でとの事ですが、
1 週間以上も滞在して、毎日「酒漬け」の日々を送っていたようです。(日記上では)
この浜田港で夏に「波高し」とはほんとに考えられません。
ほかに、あの近くには、岩見銀山もありましたね。何もしないで「酒漬け」の毎日であったとは考えられません。
家久は「酒豪」であったことは事実でしょうが、この「日記」でもそうになっていますね？！

翻って、最後の家久が豊臣側の饗応で、一夜の酒で、「腹痛」を起し死に至る、それも「自然死」である
との通説は、これらの「日記」類を読む限り、この「酒豪」が一夜の腹痛で急死するとは、とても考えられません。

上井覚兼も父親から続いての「島津家」の家臣であり、永吉で日新齊・貴久が桑波田一族を壊滅させて、永吉を
島津家所領にした後に、上井親子が「地頭」とし務めています。
家臣が書いた「日記」であるだけに、必ずしも「正確である」とも言い切れるものではありません。

このような事も、歴史を視る時、考えの一端を持ち乍ら、「本」も読む必要があるのではないかと考えます。
ちょっと、言い過ぎましたかね？！

2020, 12, 7、 本田 哲郎

○本書、今日届きましたまだ、目を通していません

本田さんからのメールを読んで

大石さんのあきれほどの連日の酒漬けの意味が予測できます。

毒殺は、だれしも用心するところです

毒殺本チャンを成功させるために無毒の酒盛りを連日連夜行って警戒を解いたのでしょう

是が非でも殺したかったのでしょうか

当時の酒は、アルコール度が非常に低く酔うためというよりもカロリー補給目的が多かったと思います。

したがって、今日考えるような酒盛りで盛り上がるようなことはなかったのではないのでしょうか？

さて、本に目を通して、果たしてどうであったか考えてみたいと思います。

=====西山 和宏

○大石より 12月7日(月)

さあ西山博士の切れ味鋭い感想が楽しみです。

覚兼と伊集院忠棟はこの頃までは地位は同格かな？秀吉との交渉などで気に入られたのか、権謀術数に長けていたのか？

三献はサンゴンと読むようです...三三九度とも何やら関係が...

○12月9日

大石さん

こんにちは 生駒の木場です。いつも お世話になります。

送信していただいているものを 全部 読んだり、見たりしたら たいへんです。

最近 は 手抜きを しないと 疲れます。

さて、Happy Holiday の動画 見ました。私の顔、柴田さんの顔が 出ていました。

ありがとう！ 面白かったです。

コロナウイルス 奈良県も 増えてきています。生駒市は 大阪のベットタウンとして 繁栄しておりますのでどこも 行かずに マンションで生活しています。 以上 よろしく

○12月13日

岩倉具視といえば、「西郷どん」の時、鶴瓶が岩倉を演じて私がこれまで思っていた公家のイメージとしてものと違う怪演を見せたことを思い出します。

岩倉のことは、ほとんど知りません。黎明館の展示会を見に行くことを機会にこれから少しでも調べましょう。

それよりも驚いたことがあります。

wikipedia を見ていたところ、一族子孫の凄さです。

子供は男4人、女6人です。森有礼は娘婿。子孫には作家の有馬頼義、俳優の加山雄三・喜多嶋舞、立憲民主党の亀井亜紀子などなど有名人が他にもぞろぞろいたので驚きました。下世話な話ですみません。 クマモト

○興味深い史料ですね

孝明天皇は慶応2年1月25日に逝去。岩倉具視は、そのことを1月11日付の手紙で薩摩藩士井上長秋に知らせた。

「...ただただ途方に暮れるのみ」とあるが、逝去から手紙を書くまでの間、岩倉はいろいろ考え、手を打ったであろう。しかし、それらはうまくいかなかったのが、薩摩に支援を求めて知らせたのであろう。

「...ただただ途方に暮れるのみ」は、何もしていなかったように装う言い草でしょう。

岩倉は下級公家ではあったが、実妹・衛門掌侍堀河紀子(えもんのしょうじ ほりかわもとこ)が天皇の寵愛を受けていたことから逝去の情報は逸早く得ていたはずである。

明治天皇踐祚は1月9日。

高崎正風が西郷吉之助の帰藩運動を行ったという史料は非常に良いものです。

大久保利通は、帰藩運動には積極的ではなかったはずですが。 ===== 西山 和宏

○西山コメント

鹿児島城の呼称は、特定の城を指すものではない。鹿児島には城が4つあった。

鶴丸城が無くなった原因と時期を知らなかったが、この記事で分かった。

明治5年6月の「明治天皇御巡幸鹿児島着御之図」から、そのころ鶴丸城はあったが、翌年に焼失というということが分かった。

鶴丸城の前は火除けのために広い空き地になっているのは、鹿児島の市中でも火事が頻繁にあったのではないのでしょうか？

城が4つあれば、火事で1つや2つ消失しても引っ越すだけで便利。

外敵の攻撃を籠城で防ぐことは考えていなかったのではないのでしょうか？

○12・12

大石くん

いつも新聞情報ありがとうございます。この講座が開催されると新聞で知ったとき、受講してみたかったのですが、コロナ騒ぎの最中であり、おまけに高齢者という負い目もあって、行きませんでした。今朝新聞を見て記事が掲

載されいたので熟読しました。西山さん書いていますが、私もこれまで知らなかったことを知ることができました。

島津氏の拠点がそれまで出水にあったものが、現在の鹿児島市に初めて拠点を持てたのが肝属氏と戦って勝ち取った「東福寺城」でしたが、その後、清水城、内城、鶴丸城と自前の城を造り、体制を磐石にしていた経過については「八期会記念誌」の拙文に書いています。

東福寺城のことについては勉強不足ですが、拙ブログの2013年3月4日に書いています。参考までに下記をクリックして頂ければ幸甚です。

クマモト タツオ <https://plaza.rakuten.co.jp/kumatake123/diary/201303040000/>

○認知症

この頃 この三文字を凄く考えます[?] [老化による物忘れ] とはちがいます^o^認知症は何かの、病気によって、脳[?]の神経細胞が壊れるために起きる症状や状態をいいます。80歳を過ぎるとわたしの周りの友人達も、何かしら話がチグハグになりアレと思います♡

過剰な自粛による社会的孤立は認知症発症の要因になります。

3つの提唱

- ①3蜜にならない場所で運動をする
- ②自分の好きな楽しいことを、日課にする
- ③家族や友人との会話を楽しむ予防に有効とされる生活習慣



①日常的に魚や緑色野菜🍷果物 🍎 ナッツ類など食べる

②体力に合った適度な運動を継続する

③サークル活動など、社会的交流をする。

これらのことをしっかり、頭にインプットして、生活しましょう♪

永野和枝

iPhone から送信

○話がちぐはぐな人は、若い人や偉い人にもいます。

予防法は、実行しなくても気にしているだけでも効果があります

気にならなくなったら、注意が必要かもしれません。

それとも気にしていないことが、大丈夫かもしれません。=====西山 和宏

○ケイジアンサー

本田哲郎様

大石

本田様の講演会資料とお手紙、読ませていただきました。

南薩における中世島津家の推移については本田様の講演資料はまたとない参加書です。第一章の日本史の年表比較(同時期の全国・薩摩の動き)は室町時代などはよくできていて参考になります。

ぼくも中国近代史(とりわけ辛亥革命を挟んだ1911年の前後50年くらいは1年毎の年表を自分で作りました)中国人の氏名と出身者は実に煩雑です。

今は人名はスマホからすぐプロフィールを探せらるので便利です。買い求めた『上井覚兼日記』のマイナーな登場人物までGoogleで検索出来てつい本よりそちらの方が読み込んでしまつたりです。

本田講演資料の興味は何と言っても第三章です。

家久の謎の死もさることながら今回は義弘の「退き口」ととりわけ「敵中突破」の意義と徳川家臣団の執拗な島津軍への追撃の謎についてももっと深読みをしたくなりました。

本田様のこの謎に対する「ツッコミ」は大いに興味をそそるものがあります。

どちらかといえば僕は関ヶ原前年の島津藩最後の内部抗争と言われる『庄内の乱』の方に興味があって異常な程のあの追撃戦は本田様のこの講演会資料でハッと思うことでした。

性格探求してみたい人としては島津藩初代藩主になった忠恒(家久)にも大いに興味をそそられます。史実を知る限りではどうも悪いイメージだけどほんとはどうだったのか？

末代まで子孫を絶たれてしまった伊集院忠棟親子も可哀想な気がします。

などなど戦国島津家をめぐる諸々は興味を欠きません。

…今年いっぱい現役生活を終えようと、今店仕舞いでバタバタしています。大学卒から美容界に入り天文館に55年いましたから後2週間くらいはやらなければいけない雑事満載です。



上手く『閉店』を済ませれば日中友好協会の活動だけに絞りコロナ禍が収まり、日中関係の様子を見て大陸にたくさんいる友人達に早く会いに行きたいと思います。

○12月14日

大石くん

今日、散歩から帰ると本田さんからの封筒が着いていました。

一番上の挨拶文にあったように、たくさんの病と戦いながらの精力的な活動には尻尾を巻きますね。

まだ全部は読んでいませんが、相変わらずの資料に驚きます。大いに刺激を受けますね。これから熟読します。

ところで、今年もいよいよ押し迫り大石くんの仕事も大団円を迎えることになりますね。

悔いのないように残務整理を済ませて、次のステップに進んでください。

自由になる大石くんと私たちも一緒に更なる楽しみを見つけることにしましょう。

それには、健康第一です。身体と精神のバランスをうまくとって一日でも長く元気でありますね。

隈元

○何の気も遣わない友と語り合い、食を共にし、旅を愉しむ…これに勝るしあわせはなし。

コロナ禍がはやく過ぎるのを待ちたいものです。

ケイジアンサー

○大石より

鹿児島市が昔、主宰していた KICS の『国際交流探訪』の現代版です。大石

現在は鹿児島市国際交流財団(鹿児島交流センター内)が主宰しています。

内容は当時と同じようなものです。今回はコロナ禍の最中でもあり開催決行を危ぶまれましたが密を避け1台のバスに25名(定員45名)を3台チャーターして行われました。



○漢文は残念ながら読み解くとは出来ません。

ただ、家久と歳久のことが混同されているとは言え、ここで伊集院幸侃が出てきましたね。

その幸侃が豊臣秀吉にそそのかされた？ 末の毒殺であれば、もう全く凄いことです。

そうすると、本田説の島津の身内による毒殺とするのか、秀吉の弟・秀長による宴席に呼ばれてのことだったので、豊臣側からの仕業とするのか難しいですね。そして、そこに幸侃がいたのか？ いなければ幸侃がどう手を使ったのか。謎は深まるばかりです。

なお最初に書いてある「朝鮮出兵時の薩摩と明の合力計画」については以前も書いたと思いますが、歴史人「薩摩島津家最強の真実」p79に「明が打診した『秀吉討伐計画』の全貌とは？」にあります。

クマモト タツオ

○大石より 本田さんにも送りました。 本田説と関連があるので。

○大石 慶二 様

先だっの「講演資料」や今回の松尾氏の「漢文」についてのイロイロのコメント、ありがとうございます。

小生は、少なくとも、家久、豊久については、「家久の謎の死」と豊久の「敵中突破」における徳川家臣の飽くなき

「追跡の経緯」はどうなのかが、今後の歴史上の「一つの大きな課題である」との認識を持っています。

特に「漢文」についてはまず小生はよく理解できないというか、全くの「音痴」であり、「字型」からしか理解出来ないほどの「無知」でもあります。ただ、この「漢文」の全体像はある程度「推測」できそうです。

義久は、島津 4 兄弟の長子でさらに、当時は一家の「総師」としての立場であり、朝鮮の役やその後の関ヶ原の戦いなどに、薩摩から出兵させることは、極端に「拒否」していたことは、義弘の嘆き「朝鮮の役の時、

名護屋での「最遅番の出向・出兵」に見られるように、さらに、関ヶ原では島津勢としては、タツタの 1,200 名の兵士しか派遣していない事などを「忖度」しますと、義久がいかに豊臣に「恨みや憎しみとも言えるほどの憎悪」を持っていたかが伺えます。

つまり、義久が川内は泰平寺において、豊臣本人に「頭を剃って謝罪して、三州が安堵されたこと」の後遺症といえますか、

その義弘が抱いた強烈な「屈辱」もあり、彼が豊臣ひとりの謀略ともいえる「朝鮮や明への領土欲」を義久は、何も評価するどころではなく、おそらく、むしろ「苦々しく思っていた」とも言えると考えられます。



松尾千歳

7時間 · 2人

...

朝鮮出兵時の薩摩と明の合力計画の続きです。

薩摩に派遣された工作員・許豫は、義久から派遣された正興寺の僧・玄龍と話していると、島津が朝鮮出兵の失敗を望んでいるように感じた。

また秀吉を強く恨んでいるので、明と手を組み、秀吉に謀反を

起こすように誘えば、それに応じるだろうと思った（義久には「囮誘之機」を感じた）と記しています。

そして、「陰謀伐国構怨亦深。如結薩摩州将幸侃（伊集院忠棟）逼令州官義久殺其弟中書（島津家久）以自明。義久不得已、而佯為降順、其心未嘗一日忘秀吉也」

と日本は秀吉に対する恨みであふれている。豊臣は気脈を通じた島津家家臣伊集院幸侃と手を組んで島津義久の弟家久を殺させた（家久毒殺と、歳久自刃が混同されています）。義久は表向き豊臣秀吉に従っているが、内心は弟を殺され、その恨みは一日たりとも忘れたことがないとあります（写真部分です）。

※国立公文書館デジタルアーカイブ

したがって、薩摩の総師としての立場である義久としては、最後まで豊臣に歯向かった〔泰平寺からの帰りに、豊臣の暗殺を試みたほどの「憎しみ」を保持していた三男の歳久(豊臣から自害させられた)の「遺恨」もあっての、義久の豊臣に対する対処の仕方は、極端になっているという事でしょう。

そのことが、島津家の家臣である伊集院幸かん一家が豊臣への傾斜したことへの「憎しみ」になっていると指摘できると思います。

したがって、「荘内の乱」などにおける島津忠恒〔のちの家久〕の「成敗」などの「遠因」になっているという事でしょう。

この事件については、大石さんが最も関心があるとの事ですので、また、自分なりの持論をお話する機会があればと、念じています。

「漢文」の「弟毒殺」とはおっしゃるように、勿論、家久ではなく、「歳久自害を命じる」と解釈すべきでしょう。家久は、「根白坂の戦い」の後、すぐに、独断で(ここが「問題」)判断して、豊臣に対して、「屈服した」(それなり「処遇」されれば豊臣大尿になっても良い、といち早く申し出た事)事が、兄の義久、義弘からみて、「怪しからん」と思わせたことが「家久の毒殺」となっているのではないかと考えられる事です。

豊臣側は、秀長を派遣して、豊臣側に「なびいた」家久を、丁重に饗応しようとしての「夕食会」を持ったほどであり、豊臣側からの「家久毒殺説」はあり得ないと思っています。

その時、おそらく、秀吉は、この戦術家の家久は、将来、自分の家臣の大名として、自分が考えている朝鮮や明への進攻やその後の島津家の「分断」などにも、家久の存在は豊臣側にとって、「貴重な存在」であるとの目論見が明白であったと視ることが、ふさわしいと思っています。

いつも感じることですが、今までに歴史家はその事が正しいのですが、あまりに「古文書の解説」に偏り過ぎていると思います。

「史実」の信ぴょう性を確実にするために「古文書」を正確に解説されておられることが「史実の証明である」ことは自明ではありますが、その「古文書」とは、誰が、どの時点でどのような環境の中で書かれたのか?などもその背景として、それぞれ「忖度」しない限り、その表した方の意見というか見解があたかも「史実である」と錯覚する事が起こり得るという事になると思います。

その典型的な「例」として、「土井覚兼日記」や「家久の「上洛日記」などは、よく視ると、「疑問だらけ?」の箇所も散見されます。

歴史家の先生方も「普遍的な史料で」との、確実な「史実」を見出されておられるのですが、自分なりの特定の「古文書」だけの解釈で歴史の史実を証明される姿は、やはり、読む人の判断にもよりますが、我々も良く噛み砕く必要がると思います。

自分勝手な持論を述べたと思いますが、このように考えることが自分が「歴史を視る時の心構え」と理解しています。

ご意見をいただければ、幸いです。

2020, 12, 16、 本田 哲郎

○さっそくの本田様の納得性のあるご回答(お返事)ありがとうございます



ぼくも本田様の意見(解釈)にほとんど賛成します。でも…という気持ちも2割ほどは残しておきたいと思っています。歴史に限らず現代でも難しいところは「なぜあの人があんなことを…」という意外性でしょうか?「よもや」が人にある限り所詮は憶測でその人なりの検証で終わるのかもしれない。

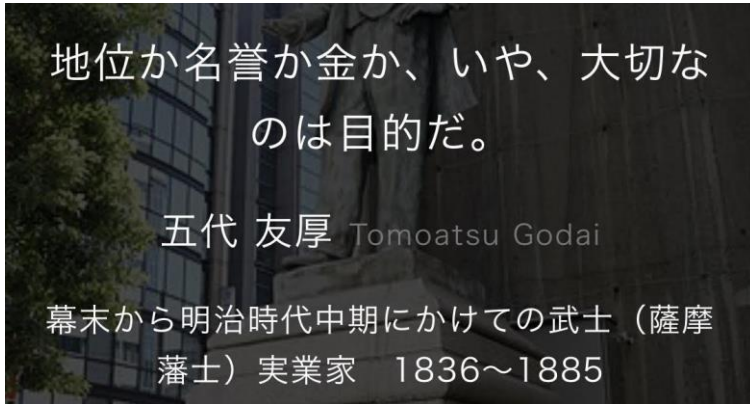
あの当時の中央(織田・豊臣・徳川)に対する島津藩(とりわけ最高責任者の義久)の心情は本田様のご意見通りだったのではないのでしょうか。

又いつかゆっくりお話を聞かせてください。

大石ケイジアンサー

○12月21日

昨日、森くん、南郷善之助くん3人で五代友厚を描いた映画『天外者(てんがらもん)』を観てきた。最後の幕に五代の「ことば」があった。



○下池コメント

いつもいつも鹿児島情報有難うございます。出水郷のことは何も知りませんでしたが、良く分かりました。今度、出水に行かれたら添付の冊子をぜひ入手されましたら。皆さんが大好きな島津家のことは勿論、地元民の生々しい個人が登場します。武家も町人も、一人一人の顔が見える。もう一歩掘り下げたら小説が書けるのではないのでしょうか。

大火の再築加勢に○○喜右衛門が豆腐、なまこ、乾し大根、卵15個、肴一鉢...を持ち寄ったとか、地元民は熊本側との往来に裏道、抜け道をフリーパスで通行したとか、江戸登りや九州内往還の経路、距離、日程、フムフムと実感しますね。

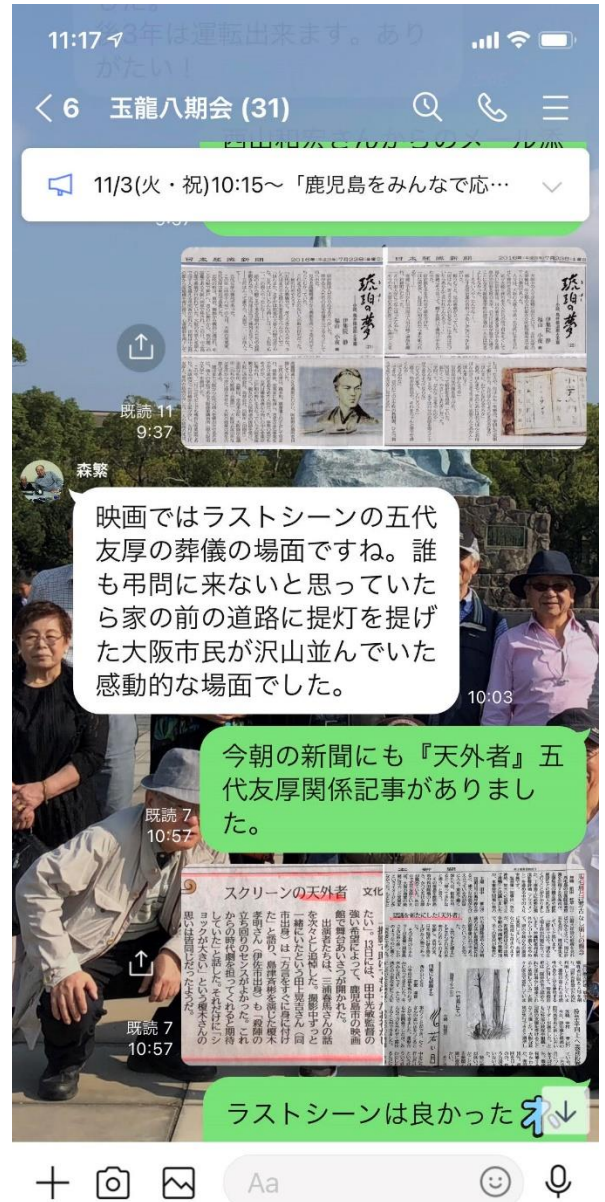
年表式の歴史でなく、自分が今そこにいるような地に足ついたナマの現場、等々が書かれ、160頁ながら深く読ませますよ。

それと、同じ鹿児島でも出水の人は少し懐が深いように常々感じていましたが、やはり独自の規範や処世訓があったのですね。

隣接地、熊本の生きざまなどが影響したか。川内以南の鹿児島や南薩のマッチポンプ的の性急さとはチト異なるようで。今度また、ジックリ行ってみたいと思っています。健康であつたらの話 シモイケ

○下池さん！投稿ありがとう 大石

LINEと違ってメール八期はLINEの会話に比べ文章のやりとりの感があります。



下池さんの参加は南郷善之助くん達も「彼は LINE よりメール文の方がいいんじゃない」勧めてみたら、と言われたばかりでした。

是非、時々ご意見を聞かせてください。大石

「出水筋」連載は作家(桐野作人)の故郷なので他の筋紀行より長くなると思ってはいましたが昭和の歴史迄続くとはさすがに思っていませんでした。

○一昨日観に行った映画『天外者』五代友厚関係の記事が今朝の新聞に出ていました。馬毛島関係もエスカレーターしています。

○隈元コメント

先日、大石くんたちが「天外者」を見に行くときに誘われていたのですが、都合が悪く行けませんでした。

その「天外者」を今日やっと見ることができました。

五代友厚についても生かじりだった私ですが、五代について新しく認識することも多く、ためになりました。

森くん宅近くの生誕地にできた公園にも数回行きましたが、年が明けたらまた行ってみたいとなりました。

新しいパソコンの取り扱いにも少しは慣れてきました。またいろいろ発信したいと思います。

○それは良かったですね

私は映画を観ていませんが本なら夫婦善哉の作者織田作之助のものがよいと思います。

○12月24日 竹下コメント

大石慶二様

年末に新年のご挨拶をお送りします。

新春のお慶びを申し上げます昨年はコロナで大変な年でしたが今年は明るい年でありますようにさて、お元気でお努めのことでしよう。

同級生と交信しておられるのを拝読して楽しませて頂いています。

皆さんのお元気な交信も拝読しています。

お元気でお過ごしください。

大分市の竹下嘉郎

○12月26日(土)

昨夜、鹿児島市では毎年の夏の風物詩『サマーナイト花火大会』が新型コロナの影響で中止になった代わりに『かごしまウインターナイト大花火大会』がしない40数か所同時に約15分間開催されました。

さて、今月は年末と言うこともあって数日早く『交信メール』を終えたいと思います。

来る年2021年がみなさまにとってそしてコロナ禍の終焉を待ち望んでいる日本の、いや、全世界の人々にとって朗報の届く年になりますよう祈念したいです!!!!!!!大石

尚来年は大石が天文館の事務所を引き払うことになった為、インターネット環境の移動その他でしばらく八期メールの作成などに戸惑ることが出るかも知れませんが1月号など今まで通り発信出来ないかも知れません悪しからずご了承ください。

その分、日々の新聞切り抜き情報など、スマホを利用しての交信は続けていきたいと思っています。

もちろん LINE 八期は交流を深めたいと思います。